

日本豆乳協会とは・・・

日本豆乳協会は、豆乳および豆乳製品の普及を第一の目的に啓発活動を行っています。1979年（昭和54年）9月1日の設立以来、豆乳メーカー各社が会員となり、メーカー同士の親睦や情報交換、さらには他の機関や団体との協調を図っています。豆乳類の製造、加工、品質、流通に関する研究はもちろんのこと、業界の健全な育成、発展に寄与することをミッションに日々、豆乳の普及や期待される効果・効能の啓発活動を推進しています。

日本豆乳協会には、業界大手豆乳メーカー4社とパッケージメーカー1社の企業が会員として所属しており、豆乳の普及のための広報・プロモーション活動を展開しています。また、定期的に総会や理事会、および技術部会、広報部会等の各部会を開催し、業界全体の動向を調査しながら、業界のレベルの向上を図っています。

日本豆乳協会では、毎年10月12日を「豆乳の日」と設定し、業界全体を巻き込んで豆乳の普及に向けて様々な活動を展開しています。“畑の肉”と言われるほど、栄養価が高くバランスのよい大豆から作られている豆乳は、生活習慣病の予防として、女性のアンチエイジングとして、そして、日々の健康維持のための飲み物として世界中で飲用されています。この豆乳の有効性や期待される効果を幅広く普及するため、日本豆乳協会では、10月12日の豆乳の日を中心に、年間を通して、様々な広報・プロモーション活動を実施しています。

また、日本豆乳協会に加え、豆乳にかかわる組織として、日本豆乳公正取引協議会があります。日本豆乳公正取引協議会は、1988年、業界が統一して、豆乳類の表示に関する公正競争規約を円滑、適正に運営することを目的に設立されました。

(2024年7月現在)